平成２７年度第１回利賀地域審議会会議録

１　開催日時　　平成２７年６月４日（木）午後２時００分～午後３時５０分
２　開催場所　　南砺市利賀行政センター特別会議室
３　出席委員　　１３名　野原　教正、北田　耕三、平田　明徳、野原　善幸
　　岡部　光昭、長谷　桂子、野原　哲二、上田　明美
　　田中小百合、米倉　宗嗣、野原　一司、関　　弘幸
　　野原　雅乃

　　欠席委員　　１名　野原　宏史
４　市側出席者　田中幹夫（市長）、高山博文（総務部長）、長澤孝司（市長政策室長）、原田　司（産業経済部長）、高桑久義（利賀行政センター長）、宮崎博好（市民協働課長）、山田智紀（秘書係長）、水口浩巳（市民協働係長）、岩腰　肇（利賀行政センター次長）、
５　傍聴者　　１名
６　協議事項　　①平成２７年度南砺市予算について
　　②公共施設等総合監理計画の作成について
　　③まち・ひと・しごと創生事業（総合戦略）について
　　④定住促進事業について
　　⑤南砺市中小企業・小規模事業者等振興基本条例について
　　⑥福野工業用地基本計画について
７　会議経過

○開会

高桑センター長から開会の宣言と野原委員の欠席報告を行う。

○新規委員４名を紹介し委嘱書が自席に配付されている事を説明。

○会長挨拶

野原会長より開会の挨拶。

○市長挨拶

今年の冬は我々の記録の中では５６豪雪が一番雪が多かったと思っていましたが、結果的には累積の積雪量が２０ｍを超えたということで近年にない大雪となった。

特に利賀地域の降雪というのが一番多かったということである色々な意味で雪とか暮らしとかが大変だという声もあるし、我々は下流部側と上流部側の関係をもう一度考え様と色々協議している中で今年の冬は本当に雪が山に多くあった訳だが、おかげで下流部には多くの綺麗な

水が流れて来るという様な事をしっかりと下流部の皆様に情報を発進して行かなければならないと改めて思った。

そういう事が山を、そして中山間地域を下流部の人達も理解をし、上流部の冬の厳しい生活を理解していくそういう事に繋げて行こうと思う。

特に平成２７年度は、庄川と小矢部川の上流から海まで富山県の呉西６市で環境の計画を作成する事になっている。

当然ダム等の電力やエネルギーのポテンシャルといった計画もあるだろうし、山と里と川と海を繋いで色々協力をし合ってまちづくりを進めて行く契約になると思うけれども、そうゆう物をはじめとして上流部から海まで取り組む予定としている。

当然、利賀地域が最上部にあって、そこで山が守られて海までしっかりと綺麗な水が流れていくという仕組み作りを考えて行かなければならいなと思った。

これは単に水だけではなく、文化や利賀地域の皆さんに取り組んでいただいているトレイルランや新たな取り組みも含めて、下流部（海）まで浸透するという事がこの地域の魅力であり大きな未来へ向けての一つのステップになると信じている。

そういう意味においても皆様方に色々取り組んでいただいている事に対してこの場を借りて感謝申し上げたい。

しんりょく祭りもそうだが、この夏は演劇の４０周年と５０周年という行事が行なわれる。

１月２２日に首相官邸で地域再生計画の認可を頂いた訳だが、その認可の中で南砺市が全国で２１番目に選ばれたが、その内容は「TOGA 芸術国際村」と「なんとブランド」という事になっており、「クリエイティブビレッジ」いう事になっている。

その情報を聞きつけて都会の方々や様々な企業の方々が改めて利賀地域に注目をし始めた方が急に増えてきた。

当然、過去も現在も色々な取り組みをしていただいている事を理解したうえで、改めて利賀地域というのは大きな力を持っていると思われる。

このことを大切にし、今回の地方創生の中においては今回がもしかしたら最後かもしれないという思いで特に山間地域振興を進めて行きたいと思う。

南砺市は４町４村であり、南砺市らしい文化を、新しいビジネスを、新しい稼ぐ地域を造って行きたいと思っている。

この地方創生のキーワードは色々あるが、最近は稼げる地方の方向に

行っており、民間の方に中山間地や高冷地を利用して何か出来ないかという思いをやれるという思いに変えて行く、そういう行政でなくてはならいという事から、本日から開催されました６月定例議会の提案理由においても申し上げたが、地域を盛り上げて行くためには行政制度改正も必要であるという様に調整をして行かなければならいと思う。

何日か前に利賀地域に移住されたニュースがあったが、地域の皆さんが一丸となって取り組んでいただいた結果だと思っている。

そのような方が一組でも多く住み続けて頂く様今後も努力をしていきたいと思う。

本日は、２７年度予算、公共施設等統合管理計画、現在総合戦略を作成中である、まち・ひと・しごと創生事業、４月から強化している定住促進事業等を説明させていただきたいと思う。

そして議題にはないが、南砺市は現在４町が分庁舎になっているが行政センターを含めて今後どの様にして行けば良いか今後着手して行かなければならないので意見をいただき市政に反映して行きたいと思っている。

終わりに、この地域審議会は法令上１０年の約束だったが、光が見える事が大事であるので、南砺市だけは延長しながらこの審議会の皆さんと情報交換やご意見頂く事を続けているのでその事もご理解を頂き意見を頂きたいと思う。

○協議議題

野原会長が議長となり、順次議事を進める。

（議　　長）　本件６件の議題があるが、議題１平成２７年度南砺市予算について説明を受け、その後質疑応答して、その後議題２～議題６まで説明を受け、質疑応答という順序で進めて行きたいと思う。

議題１「平成２７年度南砺市予算について」説明をお願いする。

（高山総務部長より平成２７年度予算のあらましに基づき説明）

（議　　長）　議題１の質疑を求める。

（市　　長）　補足だが、合併すれば合併特例債と旧利賀村時代にももらっていた普通交付税も含めて４町４村分を全部頂ける大きな利点があると言われていたが、当時合併特例債は１０年間支給だったものが東日本大震災の関係で１５年間に延長された。

合併スタート時は約８割相当の３２０億円を使用し、２割を残金にしよ

うという計画だったが、５年間延長された事で有利な起債である事から市民の皆様から理解も頂き、使えるだけ使おうという事になり本年、次年度に使用する金額も増えている状態である。

もう一つ、合併特例債の時に普通交付税がこうなるであろうという算出方法でいくと、３９億円減となるはずだったが、交付税の圧縮も小さくなった事で、広域エリアを守って行くために本年から再来年にかけて広域的行政無線等安全安心について整備しようという事になり１４億円減となった。

合併前と違ってきている事をご理解頂きたい。

（議　　長）　合併特例債で思い出したが、合併時に利賀村として合併特例債を利用して八乙女トンネルに着手したいという構想があり、村民の意識の中に根付いていたと思うが、利賀ダム工事用道路が完成した場合そういった素案が当局には多少なりともあるのか。

（市　　長）　合併特例債をもらう時に合併まちづくり計画がスタートし、その中に合併支援道路計画があった。

合併支援道路計画は、４庁舎に最短で行ける国道、県道、市道の整備計画で、その計画の中に点線で八乙女連絡道が記載されているが、点線を実線にするために要望活動を行っている状態であり、利賀ダム工事用道路の進捗によってどのタイミングで盛り上げて行くか検討している。

また、この連絡道はトンネルが良いのか、道路改良が良いのか検討しているところであり、途中に政権交代等の影響があり、国も県も積極的に改良しようという雰囲気ではないが、要望は常に行っているので了解頂きたい。

（議　　長）　議題２「公共施設総合管理計画の作成について」、議題３「まち・ひと・しごと創生事業（総合戦略）について」、議題４「定住促進事業について」、議題５「福野工場用地活用基本計画について」、議題６「南砺市中小企業・小規模事業者等振興基本条例について」一括して説明を求める。

（議題２～議題５まで長澤市長政策室長より、議題６を原田産業経済部長より資料に基づき説明）

（議　　長）　議題２～議題６まで及び議題１についての質疑を求める。

（野原哲委員）市議会の自民クラブと消防団の懇談会があり、その時に利賀地域については常備消防が無いという事で緊急時の体制づくりとしては、平日の８時３０分～１７時までは行政センター職員が救急車の運転をし、その他は民間委託している状況であり、体制としてはあまりよろしくないと思われる。

来年度に東分署が出来るので利賀ダム工事用道路が完成後の事になる

と思うが行政センターの配置については十分にご理解を賜りたい。

特に６月１５日から再開される工事による時間通行止めにより、緊急時には緊急車両も通行出来ない事もあるし、県道利賀河合線の大勘場から水無間については万年通行止状態で鍵がかかっており、緊急時には鍵が無いと入れない状態で何とか解消出来ないか夕べの会議にもお願いしてきたところであるが、それらが解消されるまで行政センター職員の配置についてご配慮をお願いしたい。

もう１点、空き家対策の中で移住してきたから手を叩いて喜べば良いものでは無いと思う。

説明の中に改装時に補助金を支給するとの事だったが、空き家を持っている人達は責任を持って解体して行ってほしいという強い願望を持っている。

移住されるのは良いが、いつの間にか居なくなったという事が無いように、補助金交付される時は直ぐに交付するのではなく十分に調査して交付したら良いと思う。

（市　　長）　南砺市内で距離的な物や道路状況、体制となると利賀地域が一番厳しいと我々も理解しているが、消防は現在上平に五箇山出張所があり井波地域に福野南砺東分署が建設されている。

道路については、通行制限があれば市としては市道山の神線を開放して対応しているので、東分署からは管轄外となるのでイレギュラーの体制が必要なることは理解している。

利賀分遣署の職員は現在１名で、以前からその事について協議もしてきたが広域消防の中ではこれから増員する事は難しいという事から、どの様な体制が良いのか考えて行かなければならないと思う。

行政センター職員が平日の勤務時間に救急車を運転する事は引き続き続けて行きたいと考えている。

空き家対策については、購入したが２年程度で居なくなったという事や今住んでいてもそのうち空き家になる可能性があるので、空き家条例の中で地元の皆さんとの関係を保ち住み続ける、また地元の皆さんが言い出しにくかった事を行政が代わって言える体制にして行きたいと思う。

県道等については、大勘場水無間に加えて４７１号線等が雨量規制により直ぐに通行止めなってしまう事から富山県砺波土木センターと数年前から協議しており、今後も安全で安心して通行できる県道、市道の確保について検討の余地があると思う。

本年の秋から富山県にドクターヘリが導入されるが、このような山間地は一番対応出来ると思っている。

南砺市の中でも、ランデブーポイントがあるので、利賀地域の中村駐車場やスターフォレストをポイントとして１５分で県立中央病院まで搬送出来るのでシュミレーションに入れておいてほしいと思う。

（総務部長）　ランデブーポイントは、南砺市の中でも１００～２００箇所リストアップされており現在調査を行なっている。

（野原哲委員）　先日、大勘場地内の堰堤から転落して千束ダムへ流されて来て我々消防団で遺体にロープを掛けて引き上げようとしている所に県警ヘリが降りてきてピックアップして行ったが、ヘリ要請の連絡体制はどの様になっているのか？

（市　　長）　県警ヘリとドクターヘリは全く違う物である。

県警ヘリは１１９番で消防本部から連絡が入り、河川や山の遭難といった時には直ぐに飛び立つ体制になっている。

ドクターヘリは、医師と看護師が乗車していて、救急車と待ち合わせした場所に着陸するヘリであるので救助するヘリではない。

（議　　長）　お願いを一つしたいが「平成２７年度予算のあらまし」５０ページの【創生】山間過疎地域振興事業（山間過疎地域振興対策）の活気に満ちた集落づくりモデル事業があるが、先日私もプレゼンをしに行ってきたが事業そのものが単年度事業だそうで、仮に今年度予算が付いた場合は今年度中に事業を済ませなければならないと言われたが、選考会をして決定されるのが７月であり、それ以降でなければ事業が出来ない事を考えれば、山間地域では７月～１０月までの４ヶ月間しか事業が行えない事になるが、私達が行なおうとしている事業は、春や秋にやらなければならない事もあり出来る事であれば１０月～１１月に募集をかけて頂き、４月に採択通知を出して頂ければ仕事的にも最適であると思う。

もう１点、天竺温泉の関係で現在大規模修繕をかけて頂いている事は大変ありがたい事だが、温泉と言いながら温泉の評判が良くない。

お湯が汚れているとの事から、天竺温泉事務局に聞いたが、調査したところ湯の花だと言っているが、他の物質も混ざっているため湯の花その物だと断定は出来ないとも言っている。

温泉宿泊施設である以上は、また来たくなる様な対応をしなくてはならないのに、ここはもう二度と来たくないと思って頂く様ではダメだと思う。

今後施設を維持して行くためには非常に不安があるので、市の方でピックアップして頂き早期対策をお願いしたい。

（長澤室長）　活気に満ちた集落づくりモデル事業の通常は６月～７月かけて行うのだがその様な意見も寄せられているので、検討して行きたいと思う。

いきなり１００万円補助という物もあるが、３０万円３年間という物も

あるので、どういうレベルでどの様に施工して行くかの選択もあると思われる。

（議　　長）　３０万円３年間という事業は競争相手が多すぎるのでいきなり１００万円の補助の物が良い。

（長澤室長）　市は年度単位で予算付けを行うので、議決も受けていない３月に募集できるのかという不安もあるが、他の案件で田植えは４月からやりたかったという意見もあるので検討させて頂きたい。

（原田部長）　天竺温泉についてはリニューアル中であり、オープン前にしっかりと現場を確認させて頂くと共にチェック体制を強化して、現場にもその様な声が聞こえて来ている事を伝えて対応していきたい。

（市　　長）　中山間過疎地域振興条例を制定し、城端地域なら１．５倍補助する等の事業を増やして来ているのでＰＲして施行して行きたいと思っているので皆さんにも色々な所でＰＲして頂きたい。

（高山部長）　山間過疎条例は特定された地域事業なので、やりたい箇所があれば柔軟に対応出来るように改正していけば良いと思う。

（市　　長）　春から秋までの間の春作業が出来ないとなると草刈りだけになってしまうので非常に申請しにくいと思うので柔軟に対応出来る様検討したい。

（野原哲委員）　先程言われた利賀行政センターに主要施設を吸収する、小さな拠点づくりについて、適材適所等を十分に配慮して将来的ビジョンに立ってのレイアウトを検討してほしい。

（市　　長）　小さな拠点づくりは、公共施設でしか考えておらず、その中でどういうニーズがあるのか考えると、今入っている事業所が再生化されていない状態であり、今後この施設にどの様な機能が必要かも含めて考えて行かなければならないと思っている。

元々役所の中に民間が入るという事があったが、利賀行政センターは既に簡易郵便局が入っているので、ＪＡ等が入る様になる事に関しては大丈夫かと思っており、上平は小学校跡地に公民館を入れて皆葎地域にあった交流施設を廃止にして、公共的な拠点づくりとしている。

また、上平診療所は大変古いためそこへの移動計画も考えている。

そう言った意味においても、利賀行政センター周辺にはその様な施設が沢山集中しているので考慮して行かなければならないと思っている。

（議　　長）　先程、４庁舎の合併についての話があったが、行政センターの在り方についても聞かせてほしい。

（市　　長）　行政センターを無くすという考えは無く、これだけ離れた地域の人達が井波の窓口へ行かないと住民票も出せないという様な事ではダメだと思っているのでご理解を頂きたい。

今大きく考えて行かなければならないのは、町の４庁舎であり、各部局や議会がここにあるという様な建物にしたいと考えている。

小さな拠点づくりと行政センター機能は残して行きたいと思う。

これからマイナンバー制度の流れがどうなるか判らないが、住民票や印鑑証明等なら町部はコンビニ等ショッピングセンターで対応出来る可能性があるが、山間部では考えられないと思っている。

山間地の人達は、１庁舎になっても何の問題も無いと思うが、全域に渡り意見徴収を行っているところである。

また、小中学校も利賀の場合は小中一環制にする検討を真剣に進めて行かなければならないと思っているし、そこに外部からの受け入れをどの様にするかという事も含めて利賀小中学校を存続させていくためにはどうあるべきかを真剣に検討していきたいと思っている。

小中一環制は井口も一緒であり、利賀と井口を対象早急に考えて行くべきだと考えている。

（議　　長）　利賀中学校は来年度校長先生が居なくなると聞いているが。

（市　　長）　校長先生の減は直接聞いていなが、市民が先に情報を仕入れて心配する様な事ではおかしいのではないかと思う。

（議　　長）　意見が無い様なら閉会としたい。

（副 会 長）　閉会挨拶

北田副会長より閉会の挨拶。